

女性の共感・理解につながるコミュニケーションのあり方

基調講演 感性コミュニケーション ～脳が創り出す男女のミゾ～

感性リサーチ代表取締役 黒川 伊保子氏

女性脳は、察してなんぼ

「いの？」と相手の言葉を「復し」、「それはつらいわね」といった言葉をかきます。女性には「共感」というエンジネオイルが一番効くのです。

認め合えれば最強

女性の脳は、ものを感じる右脳と、言葉を紡ぐ左脳が頻繁に連携して働くため、大切なものに対してわずかな変化も見逃さず、臨機応変に察して動く力に優れています。おしゃべりなどで収集した何年分もの情報を一瞬で展開できるので、男性から見ると唐突な言動に見えるのかもしれませんが。



日常生活の中で生じる様々な男女の意識の違いを理解し、エネルギー問題への女性の共感、理解を得るために必要なコミュニケーションのあり方を考えるシンポジウム「コミュニケーションの重要性 ～原子力の理解に向けて女性の視点から～」が11月18日、都内で開催された。

パネルディスカッション 社会とのコミュニケーション

当事者意識をいかに持てるか

長谷川 社会への情報提供を考えるうえで、どのようなコミュニケーションが必要だと思いますか。

武田 決まった結論について理解してくださいということだけでは、当事者意識はなかなか得られません。しかし、「自分が動くことで変えられる、自分の生活がかかっている」という意識を持てれば、参加へのモチベーションは上がるでしょう。さらに、「話を聞くことが無駄ではない」と思ってもらえるように、ツイートな

ども駆使したインタラクティブな工夫も考えるといのではないうでしょうか。

黒川 女性の場合は、電車の中で荷物をたくさん抱えている人に対して、手を差し伸べるといったことが初動のきっかけになりやすい。もっと大きなテーマでも同じ。エネルギー問題でも困っている課題があれば正直に伝えて、「ここを助けてほしい」と言ってしまうことも有効だと思います。

「甘え上手」になる

越智 医局などをみていると、指揮系統を損なうことなく、医師が「上手く甘える」ことができる部署では、看護師さんが気持ちよく働いている

一方で男性の脳は、左右それぞれで脳の機能を徹底して使うため、目の前の変化に頓着せず、俯瞰して物事を成し遂げていくことができます。この男女脳の違いを認め合えれば、最強の組み合わせとなります。ぜひ、男性社会にも多く女性脳を受け入れていただきたいと思っています。

ケースが多い。男性と女性であえて分けて考えるとすれば、「甘え上手」という発想を男性社会は持った方がいいかもしれません。

中村 情報提供者が信頼を得るためには、そのデータが何を根拠に、どうやって集められ、どのように更新されているのかといったプロセスが透明であることはとても重要。例えばウィキペディア方式のように、知が蓄積されていく過程が可視化されていけば、集団としての信頼も維持されていくのではないのでしょうか。

まとめ

価値観を共有していくコミュニケーションへ

原子力に関するコミュニケーションはこれまで、男性の視点から中心で、ともすると「上から目線」で情報提供が行われていたかもしれません。本日、女性の視点で考えることによって、いかに当事者意識を持っていただくかが大切であり、そのためには「多様な感性」で対話を続けていくことが重要だとあらためて感じました。



パネリスト紹介 (右から)

- 黒川 伊保子氏 (感性リサーチ代表取締役)
- 越智 小枝氏 (相馬中央病院内科診療科長)
- 中村 多美子氏 (弁護士)
- 武田 美亜氏 (青山学院女子短期大学准教授)

モデレーター: 長谷川 聖治氏 (読売新聞東京本社 科学部長)

(長谷川氏)